

ローティーン向けファッション誌にみる瘦身

野村 歩美

現代の日本社会において、若い女性の痩せは将来の健康リスクや次世代への影響などから長年課題となっている問題である。これまでに思春期・青年期の女性を対象とした研究が行われ、中高生のようなさらに若い世代にも瘦身志向があるという現状が明らかになっている。若年女性の瘦身志向におけるメディアの影響とファッション誌を関連させた研究はいくつかなされてきたが、対象となる雑誌はハイティーンから20代向けであり、小中学生向けファッション誌を対象とした瘦身に関わる研究はいまだない。

このような問題意識に基づき、本研究では、小中学生にも瘦身願望がある現代のローティーン向けファッション誌でどのように「痩せることは良いことだ」というメッセージが表現されているのかを誌面上の記述から明らかにすることを目的とした。

対象を一般的な中学生向けファッション誌『nicola』（月刊）とその姉妹誌で小学生向けの『ニコ☆プチ』（隔月刊）の2019年7月より1年間に刊行された計18冊とし、主題分類と「瘦身」に関する記述の抜き出しを行い、主題との関連や記述の表現を分析した。抜き出す基準は①「痩せ」という語を含む文、②体型や身体の部位に対して細いこと、細く見えることを表現する文、③体型や身体の部位に対して、太い、太ることをネガティブに表現する文、のいずれかに該当するものとした。

結果として、『ニコ☆プチ』では全330記事中19記事（5.8%）で33記述、主題11項目中3項目で「瘦身へのメッセージ」が確認できた。『nicola』では全729記事中108記事（14.8%）で309記述、主題11項目中9項目で確認できた。両誌とも、ファッション記事においては「痩せて見えること」が目指すものとして表現される一方で、「太って見えること」は解決すべき「悩み」として扱われていた。『nicola』では『ニコ☆プチ』と比較して「ダイエット」が話題にされることが多く、直接的な瘦身行為を促す傾向にあった。また、「太っていること」を強く否定したりする表現や、「太っていること」と人生や学校生活がうまくいかなくなることを結びつける表現などが確認された。

小学生を読者として想定している『ニコ☆プチ』において、「瘦身へのメッセージ」は少数かつ「細く見えるように工夫する」というような穏やかな表現にとどまっていた。それに対して中学生を読者として想定している『nicola』は、「瘦身へのメッセージ」を多く含んでおり、メッセージの内容も「痩せていることは良いことだ」というよりむしろ「痩せなければならない」「太ってはいけない」という強いものであることが明らかになった。また、ローティーンには相応しくないとされる食事制限系ダイエットが説明不十分なまま紹介されたりするなど、問題があると思われる表現も確認された。

（指導教員 松林麻実子）